

# 市場概況：The Big Picture

経済動向やクレジット市場に関するウエスタン・アセットの最新の見解を債券投資家の皆様にご提供いたします。

## 要約

- 米国では、労働市場の軟化や、財インフレとサービス・インフレの鈍化などを受け、債券利回りに低下圧力がかかる可能性がある。今年後半に予想される米連邦準備制度理事会 (FRB) の利下げは、政治をめぐる不透明感により市場のボラティリティが高まったとしても、債券利回りの低下につながる可能性がある。
- 欧州では、利下げサイクルが始まっている。ディスインフレ傾向が続いている中で、年内にあと2回の利下げが実施されると見込まれる。
- 英国では、賃金の伸びの鈍化、財のデフレ進行、および労働市場のスラック（需給の緩み）などを受け、利下げ観測が一段と高まっている。
- 中国経済は、大規模な景気刺激策は想定していないが、景気回復を支援するため、的を絞った政策措置が継続されると見込まれる。

## 概要

世界的な経済成長は鈍化し、世界のインフレ率もおおむね後退している。中国の継続的なデフレ圧力、欧米の金融引き締め、複数の国での製造業とサービス業の需要低下などを背景に、世界的なインフレ上昇圧力は緩和されつつある。こうした傾向は、主要中銀が慎重かつ段階的な金融緩和策を推進していることと相まって、世界経済の成長とインフレをさらに抑制し、ひいては先進国国債利回りの低下と小幅な米ドル安につながると予想される。ただし、金融政策が失敗する懸念や、インフレ率が中銀の目標を上回って安定しつつあること、米国の経済成長が予想以上に強いこと、財政赤字拡大を補うため米国債が増発されていることなどは、いずれも市場ボラティリティの上昇局面につながる可能性がある。エマージング債券、ハイ・イールド社債、バンクローン、MBSの一部といったスプレッド・セクターは、魅力的な利回りを提供しているが、マクロ環境に対するセンチメントの予期せぬ変化や、地政学的動向、政策金利の道筋に関する不確実性に対して脆弱であると認識している。

## マイケル C. ブキャナン



共同最高投資責任者 (Co-CIO)

世界的にディスインフレが進行しており、米国のコア個人消費支出 (PCE) 価格指数はFRBの目標である2%に近づいている。米国経済は堅調さを維持しているが、緩やかに減速すると予想される。ただし、景気後退に陥る可能性は低いと思われる。こうした中で、FRBは年内に利下げに踏み切ると見込まれる。11月の米大統領選挙を控え、ボラティリティが高まる可能性はあるものの、市場への影響は限定的と見込まれる。高格付けのハイ・イールド債、バンクローン、ローン担保証券 (CLO)、および現地通貨建てエマージング債券 (特にメキシコの債券) などに投資妙味があると見ている。





## ケビン J. リッター

エマージング・  
マーケット部門  
統括責任者

2024年の投資環境は急速に変化している。主要国市場では経済環境が変化しており、西側諸国では金融・財政政策の調整が進むと予想され、中国では緩やかなデフレ傾向が続いている。こうした中で、エマージング市場は2024年に魅力的なキャリーとトータル・リターンを獲得する機会を提供している。特にフロンティア市場のソブリン債はバリュエーションが割安であり、各国特有の信用リスク状況を勘案すると、高いトータル・リターンが期待できる。

### 主要ファクターと地域別レラティブバリュエーション

#### 米国: 経済のソフトランディングが見込まれる

- + 米国では、雇用の伸びが鈍化し、家計の貯蓄率がコロナ禍前の水準に戻る中で、米国の需要は減速すると予想される。緩やかな財のデフレや、住居費の伸びがコロナ禍前の水準に近づいていること、サービス・インフレが鈍化していることなどから、毎月のコア・インフレ率は引き続きFRBの目標水準に近づくと見込まれる。コロナ禍前の経済成長率やインフレ率と比べて、米国債利回りは高止まりしている。



#### 欧州: 追加利下げが見込まれる

- + 欧州中央銀行 (ECB) は6月の政策理事会で利下げに踏み切っており、年内にあと2回の利下げが実施されると予想される。インフレ率は低下しており、ECBの予想通り、今後もディスインフレ傾向が続くとの見方が強まった。景気は底打ちしたように思われるが、一部の先行指標によると、景気は緩やかな回復にとどまる可能性がある。名目債とインフレ連動債の両方で、デュレーションのオーバーウェイトを維持している。



#### 英国: 利下げ開始が視野に入っている

- + 英国のインフレ率は5月、イングランド銀行 (BoE) の目標である2%まで低下した。サービス価格の伸びが徐々に鈍化し、財のデフレで打ち消されている。労働市場の逼迫が緩和されつつあり、先行指標によると、賃金の伸びが鈍化する兆しが見られる。こうした中で、BoEは利下げに踏み切ると見込まれる。英国債はプラスのリターンを生み出すと予想される。



#### カナダ: FRBに先んじて利下げを開始

- + カナダのインフレ率は低下しており、民間部門を中心に労働市場が軟化している。カナダ銀行 (BoC) は6月の金融政策決定会合で利下げを開始しており、仮にFRBの利下げ開始が遅れたとしても、BoCは追加利下げを実施すると見込まれる。カナダの経済とインフレ率は、カナダ銀行の予想通りに推移しており、インフレ率は引き続き低下傾向をたどると予想される。



#### オーストラリア: 高金利の長期化

- + インフレ率の進行は停滞しているが、大量の移民流入や住宅の供給不足といった構造的な問題により、サービス・インフレが高止まりしている。オーストラリア準備銀行は「より長く、より高く」というメッセージにより、対応が後手に回っている。金融引き締めの影響で経済活動が鈍化しているが、農産物の輸出、観光業、および教育分野が好調であるため、経済は底堅く推移している。



#### 日本: 追加利上げへ

- 日本経済は2024年下半年、年率1.5%~2.0%前後の成長 (潜在成長率を上回る成長率) を遂げると予想。インフレ率は2%を上回る水準で推移する可能性がある。こうした中で、日銀は慎重なペースで利上げを行う一方、国債の買い入れ額を徐々に減額すると予想。その結果、日本国債利回りは上昇し、イールドカーブはフラット化すると見込まれる。



#### 中国: 広範な景気刺激策は予想されない

- +/- 中国の4~6月期経済成長率が減速したことを受け、ある程度の支援策が実施されると予想。2024年通期の経済成長率は5%~5.5%程度を予想。広範な景気刺激策が実施される可能性は低いが、引き続きの絞った措置が実施されると予想。中国は緩和的な金融政策スタンスを維持すると予想され、世界の主要国の中で唯一、金融緩和政策を継続している。



#### メキシコ: 選挙後の混乱が収まりつつある

- + メキシコ総選挙で与党・国家再生運動 (MORENA) が圧勝し、短期的に市場ボラティリティが高まったが、保守的な財政運営方針や実務的な閣僚人事が発表されたことから、投資家の懸念は和らぐと見込まれる。2024年下半年にはディスインフレ傾向が鮮明になる可能性がある。メキシコ中央銀行は年末にかけて金融緩和を再開すると見込まれる。米国企業が生産拠点をメキシコに移すニアショアリングの動きが進んでおり、メキシコ経済を支える構造的な要因となっている。



#### インド: 投資の好機が訪れている

- + 旺盛な海外直接投資、フレンドショアリング (同盟国の間で行われる生産拠点の移転や取引の拡大)、巨額の外貨準備 (世界5位以内) などにより、インド経済は堅調に推移。インドの現地通貨建て債券は、他国の現地通貨建て債券と比べて魅力的な金利収入を提供しており、新興国債券指数にも組み入れられているため、需給環境は良好である。したがって、インドの現地通貨建て債券はアウトパフォームすると予想。



#### ブラジル: リスクに見合ったバリュエーション

- + ブラジル経済は左派ルラ政権の下でも底堅さを維持しており、S&Pとフィッチは最近、ブラジル国債の格上げを実施。ブラジル中央銀行は6月、政策金利の据え置きを決定し、金融緩和サイクルを停止した。一方、名目金利と実質金利は依然として高水準であり、ブラジル・レアルの下支え要因となろう。





ライアン J. コーハン

米国バンクローン  
統括責任者

シンジケート・バンクローンを裏付けとするローン担保証券 (CLO) のデット・トランシェに投資機会を見出している。高格付けのトランシェは堅固な構造的プロテクションを有していることから、バンクローンのスプレッドにとって強気または弱気のいずれの環境でも引き続き好調なパフォーマンスを上げると予想される。したがって、魅力的なリスク調整後リターンが期待される。

## ウエスタン・アセットのセクター別テーマ

## 投資適格社債

米国では、企業のファンダメンタルズは引き続き底堅く推移している。企業の利益率やレバレッジは、パンデミック後のピークは下回っているものの、景気減速を乗り切るには十分に安定している。スプレッドはレンジの中でタイトな水準にあり、すでにソフトランディングを織り込んでいる。したがって、ネガティブ・サプライズに対するクッションはあまり残されていない。しかし、利回りを求める動きが続いているため、需給環境は良好である。

+/-

欧州では、投資適格社債のファンダメンタルズは堅調さを維持し、資金流入も続いている。スプレッドは前四半期に横ばいで推移し、ほとんどのセクターで長期平均を20bps上回り、フェアバリューである。

+/-

オーストラリアでは、景気鈍化見通しにもかかわらず、ファンダメンタルズは依然として健全に推移している。当社ではクレジットのオーバーウエイトを維持、特に短期の銘柄を嗜好しており、業種については一部のREITと規制に守られた経営を行っている公益およびインフラ・セクターを嗜好している。また、無担保の金融シニア債や、海外の大手銀行の新発債も嗜好している。

+

## ハイ・イールド社債

米国ハイ・イールド社債のスプレッドは、経営陣の慎重な姿勢、健全なバランスシート、および良好な需給環境を反映している。当社は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う不況からまだ回復途上にあるサービス関連セクター（航空、クルーズ船、およびホテルなど経済活動を再開した業種）や、エネルギーセクター（E&P）、ライジングスター候補銘柄に引き続き、投資機会を見出している。消費財や小売り業、住宅建設関連などのセクターにはより慎重な姿勢を維持する。

+

欧州では、ハイ・イールド企業のファンダメンタルズは非常に健全。新規発行はリファイナンスが中心。スプレッドが縮小しており、レンジ内で推移している中で、投資先を厳選し、BB格/B格の銘柄に注目している。

+/-

## バンクローン

バンクローンのスプレッドは比較的魅力的である。需要が堅調に推移している消費者サービス関連会社や、より必需性の高い消費者製品を手掛ける会社を嗜好するとともに、魅力的な利回りを提供し、景気変動の影響を受けにくい会社に注目している。一方、化学や通信などの一部の業種については慎重な姿勢を維持している。また、高格付けのローン担保証券 (CLO) に投資妙味があると考えている。

+

## ローン担保証券 (CLO)

シンジケート・バンクローンを裏付けとするローン担保証券 (CLO) のAAA格、BBB格、および一部のBB格のデット・トランシェに多くの投資機会を見出している。AAA格およびBBB格のCLOは堅固な構造的プロテクションを有していることから、バンクローンのスプレッドにとって強気または弱気いずれの環境でも引き続き好調なパフォーマンスを上げるとの見方を維持している。

+

## 住宅ローン&amp;消費者ローン・クレジット

エージェンシー・モーゲージ (MBS) は期限前償還リスク (プリペイメント・リスク) が構造的に低く、スプレッドは魅力的な水準。15年物よりも30年物や20年物、高クーポンおよび非ベンチマーク・セクターを嗜好し、利回りやコンベクシティ向上のため、銘柄選択に重点を置いている。

+

ノン・エージェンシーRMBSでは、不動産市場は様々なマクロ問題に直面しているが、住宅ローン市場でデフォルト率が大幅に高まる可能性は低いと考えられる。魅力的な借り手のプロフィールと高い信用力を持つ政府支援機関(GSE)の信用リスク移転債 (CRT) や、非適格住宅ローン (Non-QM)を嗜好する。

+

ノン・エージェンシーCMBSでは、質が高く、借り手のエクイティが大きい不動産に対する低レバレッジのエクスポージャーは、コンデユット型CMBS市場や、シングルアセット/シングルボロワー (SASB) 型CMBS市場において、魅力的な投資機会を提供している。新規組成銘柄は、信用リスクよりも利回りの面で特に魅力的であり、一部の高格付けの既発証券に投資することで、高いトータル・リターン実現の可能性もある。

+

信用力の高い消費者・商業関連の資産担保証券 (ABS) におけるオフ・ザ・ランのセクターや発行体は、投資適格社債と比較して魅力的なリスク/リターン特性を提供する可能性がある。自動車ローンABSでは、銀行による売却に伴い、リスク移転またはポートフォリオにおけるアウトライト売却の形式による投資機会が生じる可能性がある。

+

## インフレ連動債

米国物価連動債 (TIPS) の実質利回りはここ20年近くで最も高い水準に達しており、魅力的。ブレイク・イーブン・インフレ率 (BEI) の水準は、イールドカーブ全体にわたりFRBの目標と同じ水準にある。TIPSはトータル・リターン・ベースでキャッシュをアウトパフォームすると見込まれるが、インフレ率が低下傾向を示しているため、名目ベースの米国債をアンダーパフォームする可能性がある。BEIは名目の米国債と比較してせいぜいフェアバリューといった水準だが、米国債券ポートフォリオにおいて分散投資先としては魅力的であると思われる。

+

2024年に入ってからこれまで、欧州の期待インフレ率 (5年物インフレ・スワップ金利) は平均2.10%前後で推移しており、これはECBのインフレ目標と整合的な水準であると言える。30年物のインフレ連動債のバリュエーションは割高であったが、最近ではより正常な水準まで低下した。現在の利回り水準を踏まえ、インフレ連動債に対する見方を中立としている。

+/-

日本では、消費者物価指数が依然として2%を上回っており、賃金の伸びが加速している。ブレイク・イーブン・インフレ率が2%を下回っており、名目利回りに対する実質利回りのオーバーウエイトを維持する。

+

## ウエスタン・アセットのセクター別テーマ(続き)

## 地方債

非課税地方債については、豊富な供給量、ここ10年近くで最も高いインカム収入、税控除後の高い相対価値などを踏まえ、前向きな見方を維持している。投資適格の中でも低い格付けの証券を選好している。これらの証券はファンダメンタルズが良好であり、特に長期債には投資妙味があると考えられる。

+

## エマージング債

フロンティア市場のソブリン債はバリュエーションが割安で、信用リスク状況は国ごとに個別性が強いいため、魅力的な金利収入とトータル・リターンを生み出す投資機会が存在する可能性がある。

+

外国為替市場はマクロ経済動向の影響を受けやすいが、デysinフレが続き、FRBが利下げを開始した場合、特にラテンアメリカの現地通貨建てエマージング債券利回りは上昇する可能性がある。一方、アジアの現地通貨建て債券利回りは、米国債利回りと比較して歴史的な低水準にあることから、魅力はないように思われる。

+/-

エマージング社債は先進国社債と比較して健全なバランスシートを維持している。セクターのспレッドが歴史的にタイトな水準にあるため、新規発行市場や短期ハイ・イールド社債に注目している。

+/-

## アナベル・ルドベック



グローバル投資適格社債  
運用チーム統括責任者、  
ポートフォリオ・マネージャー

当社は現在、銀行セクターの底堅い業績とリスク管理の向上を踏まえ、同セクターの投資機会に注目している。カジノ・セクターも堅調を維持しており、通信・メディア・セクターについては金利上昇により業績が圧迫される恐れがあるものの、基本的に前向きな見方を維持している。また、エネルギーセクターについても、M&A活動の活発化により魅力的なトータル・リターンを獲得できる可能性がある。

## ウエスタン・アセットのサブセクター別テーマ

## セクター

## 主な見通し

**自動車関連** 中立の見通しを維持しているが、全米自動車労働組合 (UAW) のストライキの収束、健全な労働市場、需要と供給の均衡を背景に、やや強気バイアスとしている。

**銀行** 規制の厳格化、監視機能の強化、世界金融危機以降のリスク管理体制の充実などにより、銀行のリスク特性は改善しており、底堅い業績を上げているグローバルの大手銀行を大幅にオーバーウエイトする。

**エネルギー** M&Aが増加しているためキャリアに着目して投資しているが、トータル・リターン狙うことも可能と考える。世界経済の成長減速に伴い石油需要は鈍化しているが、OPECの減産、地政学的リスクの高まりを受け、原油価格に上昇圧力がかかっている。

**食品・飲料** 高水準の金利、および貯蓄の減少を背景に個人消費は抑制傾向。ただし、サプライチェーンの改善によりキャッシュフローの増加が見込まれる。

**カジノ** マカオとシンガポールのカジノ市場は引き続き好調、米国のカジノ市場はより安定した成長が予想される。カジノ・セクターについては中立ポジションとする。マカオへのエクスポージャーは維持する方針。

**ヘルスケア** 投資適格のヘルスケアセクターについては、循環的および長期的な信用力の悪化、割高なバリュエーション、およびネガティブなイベント・リスクなどを踏まえ、アンダーウエイトを継続する。

**金属・鉱業** 利回りはまずまずのキャリアを提供しており、特にM&Aが活発化し始めている中で、金属・鉱業セクターのトータル・リターンを高める機会もある。供給見通しが悪化する中、銅関連の銘柄に注目している。

**医薬品** 投資適格級では、複数の悪材料を背景に、アンダーウエイト。低格付けの特殊医薬品会社は今年、積極的な負債管理取引を行うと予想される。

**小売り** 紅海情勢の緊迫化に伴う海上輸送運賃の上昇により、利益率が圧迫される可能性がある。一般消費財を扱う小売業者の売上高は横ばいで推移すると見られ、生活必需品を扱う小売業者の売上高は小幅な伸びを示すと予想される。

**通信・メディア** 資本集約的なセクターで、金利上昇により業績が圧迫される恐れがあるものの、基本的に前向きな見方を維持する。グローバルな通信会社については、加入者数や業績が伸び悩んでいるが、保守的な財務方針を採用することで、概ねバランスが図られている。

**運輸** 消費者はモノの購入よりも旅行に支出することを引き続き優先している。プレミアムクラスやビジネスクラスの需要が高まっており、国際便を運航している大手航空会社にとって追い風となっている。一方、低コストの航空会社は、運航コストの上昇や、過剰な国内輸送能力による航空運賃の低下により、業績が圧迫されている。

**公益** フリーキャッシュフローが大幅なマイナスであり、アンダーウエイトを維持する。第一順位抵当権付社債に優先的に投資し、無担保事業会社や持株会社の社債にも選択的に投資。

## リスク・ディスクロージャー

投資一任契約および金融商品に係る投資顧問料(消費税を含む)：

投資一任の場合は運用財産の額に対して、年率1.1% (税抜き1.0%) を上限とする運用手数料を、運用戦略ごとに定めております。また、別途運用成果に応じてお支払いいただく手数料 (成功報酬) を設定する場合があります。

その料率は、運用成果の評価方法や固定報酬率の設定方法により変動しますので、手数料の金額や計算方法をこの書面に記載することはできません。

投資信託の場合は投資信託ごとに信託報酬が定められておりますので、目論見書または投資信託約款でご確認ください。有価証券の売買又はデリバティブ取引の売買手数料を運用財産の中からお支払い頂きます。投資信託に投資する場合は信託報酬、管理報酬等の手数料が必要となります。これらの手数料には多様な料率が設定されているためこの書面に記載することはできません。デリバティブ取引を利用する場合、運用財産から委託証拠金その他の保証金を預託する場合がありますが、デリバティブ取引の額がそれらの額を上回る可能性があります。その額や計算方法はこの書面に記載することはできません。投資一任契約に基づき運用財産の運用を行った結果、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動により、損失が生ずるおそれがあります。損失の額が、運用財産から預託された委託証拠金その他の保証金の額を上回る恐れがあります。個別交渉により、一部のお客様とより低い料率で投資一任契約を締結する場合があります。

© Western Asset Management Company Ltd 2024. 本資料の著作権は、ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社およびその関連会社 (以下「ウエスタン・アセット」という) に帰属するものであり、意図した受取人のみを対象として作成されたものです。本資料に記載の内容は、秘密情報及び専有情報としてお取り扱いください。ウエスタン・アセットの書面による事前の承諾なしに、全部又は一部を無断で複製、複製することや転載することを堅くお断りいたします。

過去の運用実績は将来の運用実績を示すものではありません。また、本資料は、将来の実績を予測または予想するものではありません。

本資料は、適格機関投資家、特定投資家、企業年金基金、公的年金等、豊富な投資経験と高度な専門知識とを備えたプロフェッショナルのお客様のみにご提供するものです。

本資料は情報の提供のみを目的としています。資料作成時点のウエスタン・アセットの見解を掲載したものであり、将来予告なしに変更する場合があります。また、リアルタイムの市場動向や運用に関する見解ではありません。

本資料で第三者のデータが使用されている場合、ウエスタン・アセットはそのデータが公表時点で正確であると信じていますが、それを保証するものではありません。ウエスタン・アセットの戦略・商品の受賞またはランキングが含まれている場合、これらは独立した第三者または業界出版物により公平な定量・定性情報に基づき決定されたものです。ウエスタン・アセットは、これらの第三者の標準的な業界サービスを利用したり、出版物を購読したりする場合がありますが、それらは、すべてのアセット・マネージャーが利用可能なものであり、ランキングや受賞に影響を与えるものではありません。

本資料に記載の戦略・商品には、元本の一部または全部の損失を含む大きなリスクが伴う場合があります。また、当該戦略や商品に投資することは大きな変動を伴う可能性があり、投資家にはそのようなリスクを受け入れる経済力および意思を持つことが求められます。

特段の注記がない限り、本資料に記載の戦略のパフォーマンスはコンポジットのデータです。コンポジットではないその他のデータについては、当該戦略の運用方針に最も近いと考えられる口座を、コンポジットの代表口座として掲載しています。つまり、代表口座は運用結果により選択されるものではありません。代表口座のポートフォリオ特性は、コンポジットやその他のコンポジット構成口座と異なる場合があります。これらの口座についての情報はご依頼に応じてご提供いたします。

本資料に記載している内容は、ウエスタン・アセットの投資家に対する投資助言ではありません。個別銘柄・発行体に関する一般的または具体的に言及する内容は、例としてご提示したものであり、購入または売却を推奨するものではありません。また、ウエスタン・アセットの役員及びお客様は、本資料に記載の有価証券を保有している可能性があります。

本資料は、会計、法務、税務、投資またはその他の助言の提供を意図したのではなく、またそれらに依存すべきではありません。お客様は、ウエスタン・アセットが提供する戦略・商品への投資を行うにあたり、経済的リスクやメリットなどについて助言が必要である場合は、ご自身の弁護士、会計士、投資家、税理士、その他のアドバイザーに相談して下さい。お客様は、居住国で適用される法令を遵守する責任を負います。

ウエスタン・アセットは世界有数の運用専門会社です。1971年の設立以来、債券運用に特化したアクティブ運用機関として最大規模の運用資産と運用チームを有しています。拠点は米国カリフォルニア州パサデナ、ニューヨーク、英国ロンドン、シンガポール、東京、豪メルボルン、ブラジル・サンパウロ、香港、スイス・チューリッヒにあり、フランクリン・リソースズIncの完全子会社ですが、経営全般に独立性を保っており、次の6法人で構成されています。米国：ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニーLLC (米証券取引委員会 (SEC)登録の投資顧問会社)。ブラジル・サンパウロ：ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニーDTVM Limitada (ブラジル証券取引委員会とブラジル中央銀行が認可・規制)。メルボルン：ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニーPty Ltd (事業者番号ABN 41 117 767 923、AFSライセンス303160)。シンガポール：ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニーPte. Ltd. (CMSライセンスCo. Reg. No. 200007692R、シンガポール通貨監督庁が監督)。日本：ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社 (金融商品取引業者、金融庁が規制)。英国：ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニーLimited (英金融行動監視機構 (FCA) が認可 (FRN145930)、規制)。本資料は英国ではFCAが定義する「プロフェッショナルな顧客」のみを対象とした宣伝目的に使用されます。許可された欧州経済領域 (EEA) 加盟国へ配信する場合があります。最新の承認済みEEA加盟国のリストは、ウエスタン・アセット (電話：+44 (0)20 7422 3000) までお問い合わせください。詳細は当社ウェブサイトwww.westernasset.co.jpをご参照ください。

ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社について

業務の種類： 金融商品取引業者 (投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業)

登録番号： 関東財務局長 (金商) 第427号

加入協会： 一般社団法人日本投資顧問業協会 (会員番号 011-01319)、一般社団法人投資信託協会